

公開保育 評価者記録シート

1. 評価日時 2026 年 1 月 20 日（火）10 時から 12 時 00 分

2. 対象施設

法人・施設の名称	社会福祉法人都城市社会福祉協議会 縄瀬保育園
施設長	園長 富永俊江
所在地	都城市高崎町縄瀬 1408 番地

入園対象児	0 歳児～6 歳児（乳児から就学前児童）
定員 / 在園児数(訪問時)	30 名 / 25 名
開園時間	午前 7 時～午後 6 時
職員構成	園 長 1 名
	副園長 1 名
	保育士 7 名 栄養士 1 名
	調理員 1 名
	(育休 2 名)

施設の特徴	子育て方針 1. 子どもとともに（子どもの最善の利益のために） 子どもたちが心身ともに健康で情緒の安定した生活ができるよう、優れた保育力を発揮し、子ども達の豊かな育ちを支えます。 2. 保護者とともに 保護者の気持ちをくみとり、温かくわかりやすい対応を心がけ、信頼関係を築いて子育てを支えます。 3. 地域とともに 地域で子どもを育てる環境づくりに貢献していきます。
-------	--

* 「1. 施設の概要」欄は、はぴみやこんじょ（都城市子育て応援総合サイト）から引用

3. 評価者

他の乳幼児施設 職員または地域の 幼児教育・保育 関係者	(○)①共に研修に取り組む他園職員 ()②自治体こども関連職員等 ()③地域の幼児教育・保育に長年 携わっている方等	五十市こども園 主幹保育教諭 小林 佳奈子
小学校等の他校種 教員等	()①小学校との接続を図っている 小学校職員 (○)②養成校職員等	縄瀬小学校 校長 宮下 俊行
幼児期の教育・保 育に専門的知見を 有する外部有識者	()①地域の幼児教育アドバイザー ()②教育・保育要領自己評価 コーディネータ (○)③幼児期の教育・保育に専門的知見を 有する外部有識者等	

4. 当日の日程

時間配分	内容
あいさつ、施設の概要説明	15 分 ① 園長、副園長から施設の概要説明 保育活動の特徴や、子どもとのかかわりで意識してい ること、行事、食育、子育て支援等の取組などについて 説明
保育の観察	1 時間 15 分 ① 0 歳児から 5 歳児までの活動を自由に見る ② 必要に応じて、クラス担当や主幹に質問
意見交換	午後より 1 時間 ① 公開保育の観察を踏まえて、感じたこと、気づいたこ と、気になったことについて意見交換 ② 子どもの主体性があったところ、保育者ベースで活動 が展開されていた部分などを評価者から報告

* 「4. 当日の日程」は、記載例です。必要に応じて書き換えてください。

【公開保育の評価・自己評価】

法人・施設名称	園長名	作成日
社会福祉法人 都城市社会福祉協議会 縄瀬保育園	富永 俊江	2026 年 1 月 28 日

評価の記録（まとめ）

	評価者 A	評価者 B	評価者 C
	他の乳幼児施設職員または地域の幼児教育・保育関係者	小学校等の他校種教員等	幼児期の教育・保育に専門的知見を有する外部有識者
良い点	・環境や保育の考え方、子どもの発達に合わせた取り組みなど専門性の高い保育をされていて、子どもたちの遊びの発想力や協力、個性が尊重されていて楽しく遊ぶ力が身についていると感じました。 そこには、職員の知識や園での取り組みの理解力が強く、そして職員の丁寧な関わりの積み重ねで成り立っていると感じました。環境や関わり次第で子どもの可能性は広がるということを今回の公開保育で再認識できました。 また、行事の独自の取り組みもここでしか味わえないもので日頃の遊びを通して発表するなど無理がなく、そして楽しい取り組みだと思いました。子ども主体を中心に無駄のない保育の考え方や動きに感心することばかりでした。 ・園での素晴らしい取り組みから小学校へ繋げていくにあたり、どう子ども達が新しいスタイルにステップアップしていくのか、そしてこれからの可能性の広がりに興味があります。 また、縄瀬保育園の保育の在り方や保育の知識、新しい保育の情報を一緒に勉強させて頂きたいと個人的に思いましたので、またお話できる機会ができればと思います。	・「子どもたちが主役の保育」という核となる考えがあり、保育方針がしっかり全職員に浸透している。「できるだけ遊びを止めない。」「子どもたち一人ひとりの人権を尊重している。」といった園長先生の説明通り、全職員で実践しておりすばらしい。 ・自由遊びの中で、子どもたちの意思決定の場を最大限に尊重している中で、朝、こっそり新しい仕掛けを置いていたりおもちゃをよりよいものに改善したりと、放任ではなく、目の前の子どもたちの成長をしっかり見据えて準備していることがよく分かった。子どもたちの中での問題解決も見守る姿勢があり、能動的・積極的な子どもたちが育っているのではないかと思った。 ・限られた人材の中で工夫をして職員を回しているマネジメントがすばらしかった。もちろん子どもたちの保育が最優先となるだろうが、草取りや野菜のお世話をしている職員がいたり、話の中で午後、おもちゃ作りの時間がある職員もいるとの事だった。また、生活ノートの作成・書き方等にも工夫が施されているなど、力をいれるべき所に力を注ぎ、省力できる部分は、思い切ってなくしていくという姿勢も見られた。一人一人が役割を十分理解し支え合い助け合う職場の雰囲気が働きやすい職場を生みだしているのではないかと思った。	

		・思い切って無くしていくという姿勢もみられた。一人一人が役割を十分理解し、支え合い助け合う職場の雰囲気が働きやすい職場を生みだしているのではないかと思った。 ・1、2年生のおもちゃ大会に来てもらったり、5・6年生が訪問して園児と一緒に遊んだりといった交流をさせていただいているが、今回、「校長先生」と園児に覚えてもらって声をかけてもらってうれしかった。また、大変お忙しい中、読み聞かせにも毎月来ていただいたり学校運営協議会の委員をお願いしたり、先日は「繭の餅」を届けてくださったりと感謝しかない。今後も、ますます交流を深めて、お互いのメリットが増えるように計画的に取り組んでいきたい。現在の児童も卒園児が多いが、小一プロブレムと言われる現象は感じない。スタートカリキュラム等の作成等も合わせてお願いしたい。 ・インスタ等も含め、幅広くアピールしているのが素晴らしい。今回の公開保育で、保育園の方針等、これまでより更に深く詳しく分かる部分があった。今後も、よりよい情報発信を行い、保育園だけでなく、縄瀬地域全体の活性化につながる活動に期待したい。小学校も頑張ります。	
更に期待する点	改善点、および		

評価について	評価を受けて、子ども達にとって保育園は安心できる場所であるべき事を改めて考えるよい機会となる。0・1・2歳児の育児担当制も、安心できる環境の中で特定の大人が毎日、同じ関わりをする変わらない日常が安心へとつながる。安心があって遊びに向かう事ができる事も職員全体で共有し、丁寧な関わりと優しい語り掛けを意識してきた。 遊びへの認識と、専門職としての意識には課題が多くある。「保育に終わりはない」という言葉のように、遊びも時代と共に変化させていく必要がある。それと同時に、保育士の働く環境も課題だ。 午後からの「語ろう会」では、少人数のグループにする事で多くの意見を聞くことができた。その中で仕事の多忙さから、子どもへ向き合う心の余裕がない事や、養成校で学ぶ「子ども主体」と現場との差があり過ぎて戸惑う等、若手保育士の正直な意見に驚いた。子ども主体の保育と働き方改革は関連している。事務の軽減やノンコンタクトタイムの確保により、心の余裕ができ、優しい関わりが子ども主体の保育へ繋がる。それから遊びの質を上げる「環境認識や遊びの仕掛け」が続いていく。 子どもを見守るだけでなく、遊びの環境を整える事、働く環境を整える事が重要となってくる。
--------	---